

分担研究報告書

「尖閣・台湾有事の際の傷病者搬送に関する研究」

研究分担者 竹島茂人

（沖縄県立八重山病院・医局・救急科部長）

研究要旨

沖縄県立八重山病院は、八重山諸島の石垣島に位置する。尖閣、台湾に最も近い公的病院である。石垣～那覇は、約410kmと東京～大阪間とほぼ同距離である。尖閣もしくは台湾で有事が発生した際、傷者は当院もしくは当院近傍でDCSを施した後に沖縄本島へ航空搬送される可能性が高い。なぜならば、石垣～那覇は、UH-60で約100分間。CH-47では、約120分を要する上、台湾～石垣は、約270km、尖閣～石垣は約170kmの距離があり、重症患者は、止血処置等の処置なしには、その搬送時間を耐えることは困難であるからである。

A. 研究目的

尖閣・台湾における有事の際に傷病者搬送に資する情報を収集する。

B. 研究方法

各方面からの電話等による情報収集。

（倫理面への配慮）

特に必要なし。

C. 研究結果

台湾～石垣は、約270km、尖閣～石垣は約170kmの距離があり、石垣～那覇は約410kmである。陸自ヘリである、UH-60では約100分。CH-47では約120分が必要である。

D. 考察

重症戦傷患者を後送する場合、尖閣・台湾に最も近い公的医療機関である、八重山病院で、DCS（Damage Control Surgery）等の

処置を受けないと患者は、後送に耐えられないと思われる。固定翼LRを使用すると石垣～那覇間は約50分であるが、新石垣空港の滑走路が使用できる保証はない。複数の重症戦傷患者搬送には、大型ヘリの使用が好ましい。

E. 結論

八重山病院近傍に、大型ヘリポートが必要である。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

未

2. 学会発表

2022年11月の第50回日本救急医学会でのシンポジウム「安全保障」へ演題申込中。

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得：なし。
2. 実用新案登録：なし。
3. その他：なし。